

# 確かに技術を受け継ぐ3代目

祖父の代より農業を始め、私で3代目となります。祖父と父が培った技術をしっかりと受け継いでいきたいです。



彦根市田原町  
小林農園  
小林 佳祐さん(34)

主要作物の作付面積

作物名	作付面積
水稻	約16ha
小麦・大豆	約7ha

平成31年(2019年)度予定



新技术に飛びつくのは簡単ですが、どうしり構えて本当に必要か見極める力を付けたいです。

6年前に就農した3代目

手間を掛けねばかけるほど素直に

形になつてあらわれるところが農業の魅力だと話す小林さん。6年前に一般企業を退職し、実家を繼ぐ形で就農されました。祖父の代から農業を始めたられ、3代目として日々勉強中だそうです。農業は天候にとても左右されやすいですが、自然相手の不確定要素をクリアし、全てがうまく進んだ時の達成感はひとしおだと話してくださいました。

酒粕肥料を使った米作りも積極的に使う

月桂冠(株)と提携している酒粕肥料を使つた「酒粕米」は、稻枝酒粕米部

会が発足した当時から20数年続けているこだわりの米です。同部会は収穫した米で酒を造り、その際に出た酒粕を肥料にする資源循環型農業を実践しています。小林さんの「酒粕みずかがみ」がJA東ひわこの品評会で入賞するなど、積極的に取り組ま

受け継いだ技術が何よりの財産農業に関しての知識がそれほど無いままで就農したそうですが、徐々に作業や自身の農園に必要なことが理解できるようになってきました。近年、スマート農業などが発展し、新しい農業の手法や選択肢が増えてきますが、本当に必要な技術かを見極めることが重要だと考えておられます。祖父や父が築いてきた基盤を大切に、手間を惜しまず丁寧な仕事をすることを最優先に考えたいと、熱い思いを話していました。



熱い気持ちと確かな技術を引き継いでいきます  
写真左=佳祐さん(34) 中央=昇さん(59)  
右=次郎さん(86)

Search!

## 今月の表紙

今月の表紙はイチゴです。近年はハウス栽培が普及し、12月から5月末ごろまで販売されていますが、もともとの旬は春なんです。ビニールハウスの中で春のような環境を作り出すことで、冬にも収穫できるんですね。農業技術の発展が、私たちの暮らしを豊かにした実例です。



## Contents

- 4 特集 春の宝石ひこね夢アスパラ
- 6 今日からはじめる家庭菜園
- 8 ピックアップ! Eすとニュース
- 10 あつまれ 地域のEひと
- 14 おいしくうれしく 魔法のレシピ